



次世代向け派遣事業

学校・茶の湯・ 出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒に対し、学び舎である学校等で、日本の生活文化である「茶の湯（茶道）」体験を実施するプロジェクトです。

茶の湯を体感する機会を提供することにより、日本の道德観や美的感覚、生活を彩り他者をもてなすための創意工夫を学ぶことで、子どもたちの豊かな心や創造性を育むとともに、先人から受け継がれてきた文化の心を次世代に継承することを目的に実施しました。

対象 | 京都府内（京都市立を除く）の小中学校・府立特別支援学校
※教育支援センター、適応指導教室等も対象

期間 | 2024年6月25日（火）～2025年2月26日（水）に随時実施

実施校数 | 小学校18校／中学校4校／特別支援学校5校／適応指導教室1教室

実施件数 | 計29件

参加者数 | 計993名（予定）

派遣流派 | 表千家／裏千家／武者小路千家／藪内家／大日本茶道学会
派遣講師数 | 主講師24名

協力 | 京都府教育委員会

茶の湯体験外部コーディネーター | 崎川真璃絵／佐藤和佳子／北村英之

茶の湯体験 |

「茶の湯」の世界へようこそ!

お茶会に参加しよう!

学校の教室等をお茶席に設え、身近でありながら特別な空間となった教室等で、子どもたちを心からもてなす「お茶会」を実施。五感を通して講師の心からのもてなしを体感することにより、茶の湯に息づく日本の生活文化の豊かさ、奥深さ、茶の湯の「こころ」について学ぶプログラムです。



教室の設え (セッティング)

茶の湯は一般的に畳の上で正座をして行いますが、座敷やカーペットでの実施が難しい学校では、椅子に座って行う「立礼式^{りゅうれい}」で体験を行いました。

座礼式(例)



立礼式(例)



プログラムの基本的な流れ



① 導入(学習のねらい、講師紹介)

学校教員から学習のねらい、体験の流れ、講師等を紹介します。講師・補助講師・水屋のスタッフ紹介では、お茶会は表に立つ亭主だけでなく、裏で準備を行う人々の尽力もあり成り立つことを知り、物事の背景を捉える学びに繋がります。



② 講義

学習のねらいや学校からの要望に応じて、学校での学びに関連づけた講義を行います。

[講義例]

- ▶ お茶の伝来から千利休までの茶の湯の歴史 ▶ 「和敬清寂」「一期一会」など掛け軸で用いられる禅語について(茶の湯の「こころ」)
- ▶ 茶室や道具類について



③ 実演・解説

講師等による実演と解説を交えながら、基本的なお茶会の流れや、立ち振る舞いを学びます。

[例]

- ▶ お辞儀などの礼儀作法を体験する
- ▶ 席入り、点前の実演を見て学ぶ
- ▶ お菓子、お茶のいただき方を学ぶ



④ 体験活動

②③で学んだことを踏まえ、お菓子とお茶をいただく「もてなされる体験(客人の振る舞い)」と、「もてなす体験」を行います。

また、子どもたちが自ら「お茶を点てる体験」等を組み合わせることも可能です。



[実施例] (A～Dを組み合わせる実施)

A 児童生徒が講師からもてなしを受ける



B 児童生徒がペアを組んで、互にお茶を点て合い、もてなし合う。



C 児童生徒が自分で点てたお茶を飲む(ご自服)



D 児童生徒が教員等をもてなす



⑤ まとめ(感想の発表・質疑応答)

講師による活動のまとめや、子どもたちからの感想・質疑応答、講師へのお礼で体験を終わります。



茶の湯体験初実施校への 支援体制 (コーディネーターの派遣)

本プロジェクトでは、茶道家が児童生徒や学校設備に合わせたオリジナルの茶の湯体験プログラムを企画します。実施希望校のうち約7割が茶の湯体験を初めて実施する状況を踏まえ、打ち合わせや体験教室の設営を円滑に行えるよう、京都府から学校教員と茶道家間の調整を担うコーディネーターを派遣しました。



南丹市立美山小学校 (5・6年生)

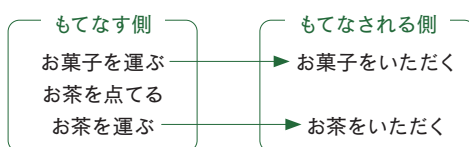
講師 | 杉山和子(表千家)

科目(コマ数) | 道徳、家庭科(2コマ)

教室 | 家庭科室(座礼+立礼)

[実施内容]

- ① 導入(学習のねらい、講師紹介)
- ② 講義、床の間の解説、校区内で摘まれた草花を使って茶花を生ける様子を見学
- ③ 席入り等の実演を見学
- ④ お菓子の取り方・お茶のいただき方のレクチャー
- ⑤ お菓子と自分で点てたお茶を飲む体験
- ⑥ もてなす側ともてなされる側を交代で体験



- ⑦ まとめ、児童からの感想発表



京都府立向日が丘支援学校(高等部3年生)

講師 | 中谷宗豊(裏千家)

科目(コマ数) | 特別活動(2コマ)

教室 | 生活訓練室(座礼+立礼)

[実施内容]

- ① 導入(学習のねらい、講師紹介)
- ② 礼の意味や作法を学ぶ
 - ・畳での座り方
 - ・礼の作法
 - ・床の間に礼をする意味を学ぶ
- ③ 講師による席入り、お茶とお菓子のいただき方の実演を見学
- ④ お菓子と講師が点てたお茶をいただく体験
- ⑤ お茶を点てる体験(ご自服または友だちに点てる)
- ⑥ 質疑応答

南丹市立園部第二小学校（6年生）

講師 | 芳野敬弥（武者小路千家）

科目（コマ数） | 社会科（2コマ）

教室 | 指導教室（座礼）→視聴覚室（立礼）

〔実施内容〕

- ① 導入（学習のねらい、講師紹介）
- ② 講義（茶の湯の歴史、「和敬清寂」について）
- ③ お点前鑑賞、お菓子とお茶のいただき方を学ぶ
- ④ お菓子と講師が点てたお茶をいただく体験
- ⑤ お茶を点てる体験（ご自服）
- ⑥ 学校教員をお菓子とお茶でもてなす体験
- ⑦ まとめ、質疑応答



宇治市立南小倉小学校（3年生）

講師 | 小林健一（藪内家）

科目（コマ数） | 総合的な学習の時間（2コマ）

教室 | 通常教室→ホームルーム教室（座礼）

〔実施内容〕

- ① 導入（学習のねらい、講師紹介）
- ② 講義（茶の湯の歴史やお茶の栽培について）
- ③ 和室に移動して、席入り体験
- ④ 講師からの設え解説
- ⑤ お点前鑑賞
- ⑥ お菓子と講師が点てたお茶をいただく体験
- ⑦ 2人1組になりお茶を点て合う体験

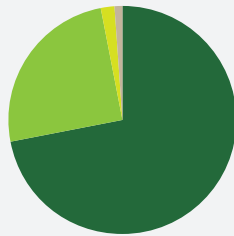


アンケート結果 (児童生徒)

回答数 | 811名 (2025年2月13日時点)

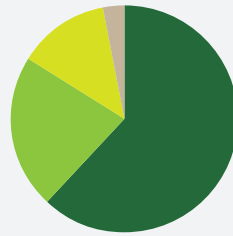
茶の湯を体験してみて、
どうでしたか？

- 72% | とてもよかった
- 25% | よかった
- 2% | あまりよくなかった
- 1% | わからない



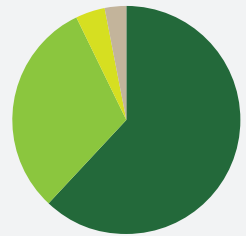
茶の湯を体験するのは、
初めてですか？

- 62% | 初めて
- 22% | 学校でしたことがある
- 13% | 家でしたことがある
- 3% | 習っている



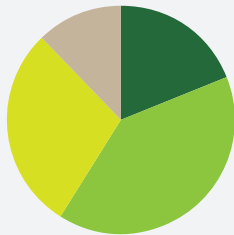
また、茶の湯を
体験したいと思いますか？

- 62% | とても思う
- 31% | すこし思う
- 4% | 思わない
- 3% | わからない



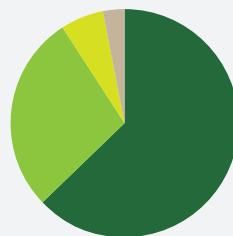
茶の湯を習って
みたいと思いますか？

- 19% | とても思う
- 40% | すこし思う
- 29% | 思わない
- 12% | わからない



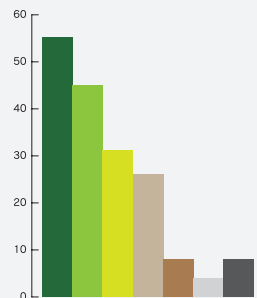
今日の体験を、
家族や友だちに
話したいと思いますか？

- 63% | とても思う
- 28% | すこし思う
- 6% | 思わない
- 3% | わからない



茶の湯を体験してみて、
どのような気持ちに
なりましたか？ (複数選択)

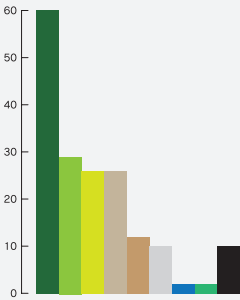
- 55% | 楽しかった
- 45% | ほっとした
- 31% | 緊張した
- 26% | 元気になった
- 8% | とくに感じなかった
- 4% | 緊張や不安が
少なくなった
- 8% | そのほか



アンケート結果 (教員)

回答数 | 42名 (2025年2月13日時点)

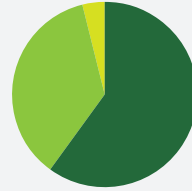
応募した理由 (複数選択)



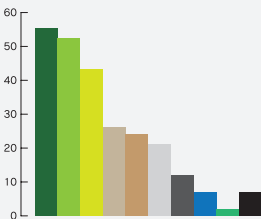
- 60% | 体験内容に興味があったから
- 29% | 授業に新しい学びの要素を取り入れたかった
- 26% | 指導計画と合っていたから
- 26% | 子どもたちが地域について知るきっかけになると思ったから
- 12% | 教員も学んでみたかったから
- 10% | 子どもたちの状況に合っているから
- 2% | 行事等の予定に余裕があったから
- 2% | 授業をアップデートしたかったから
- 10% | その他

子どもたちの満足度について

- 60% | 非常に高かった
- 36% | 高かった
- 4% | 普通



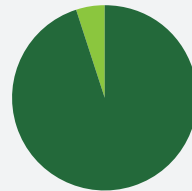
実施してみて、育むことができたと思う子どもたちの能力 (複数選択)



- 55% | 他者を思いやる力
- 52% | 感動する力
- 43% | 集中する力
- 26% | 共感する力
- 24% | 生命やモノを尊ぶ力
- 21% | 対話する力
- 12% | 伝える力
- 7% | 協力する力
- 2% | 発想する力
- 7% | その他

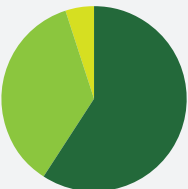
子どもたちの普段とは違う一面を見ることができましたか？

- 95% | できた
- 5% | できなかった



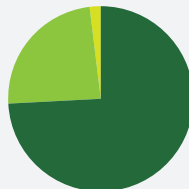
専門家の指導に触れることによって、指導方法の気づきや改善に繋がりましたか？

- 59% | とても思う
- 36% | まあ思う
- 5% | どちらともいえない



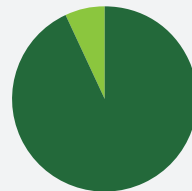
今回の体験を通じ、子どもたちの興味・関心を引き出すことができましたか？

- 74% | とても思う
- 24% | まあ思う
- 5% | どちらともいえない



今後の事業について

- 93% | 活用したいと思う
 - 5% | 活用したいと思わない
- ※打ち合わせ時間の短縮等が図られるのであれば活用を検討



子どもたちの声

- ▶ 社会では、自分の地位などがあるけれど、茶の湯では地位に関係なく、誰でも平等に扱うという決まりが素晴らしいと思いました。また、自分のことを謙虚に思う心も印象に残りました。(小学6年生)
- ▶ 先生一人一人の所作が綺麗で見入っていました。お茶を点てる動作や、お礼の仕方も一つ一つが洗練されていて見ているこちらも背筋が伸びました。(小学5年生)
- ▶ 静かになると、お湯を入れる音や、お抹茶を点てる音など、色々な音が聞こえてきて、とても落ち着きました。(小学5年生)
- ▶ 茶道は日本の文化全てに繋がっていると知って、すごいと思った。(小学6年生)
- ▶ 妹とすぐ喧嘩になっちゃうことがあるけど話を聞いて「和敬清寂」の動じない心や、清潔さを意識して、喧嘩ないようにしようと思いました。(小学6年生)
- ▶ 「一期一会」の言葉が心に残りました。一生に一度しかないから、その時その瞬間を大切にしたいと思います。(小学6年生)
- ▶ プロの人は点てるのもうまいし、お茶もおいしかったです。私がお菓子を好きではなくて、横に置いていたら、優しく「無理して食べなくていいよ」と言ってくれて嬉しかったです。(小学3年生)

京都府教育委員会からのコメント

茶の湯は、一服の茶を通じて、席を同じくする人々が心を開いて繋がり合うことができる取組です。感想からは、礼儀作法や所作のみならず、それらの背景にある、もてなす側ともてなされる側が互いの心を和らげてつつしみ敬う心などへの理解を深めた様子がかがえます。今回の取組が、子どもたちが伝統文化への関心を高め、人を思いやる心、豊かな感性を育む一助になれば幸いです。

教員の声

- ▶ 伝統文化に触れるだけでなく、己をコントロールする所作や相手に心を尽くすという意味、そして実感など、児童にとって多くの学びがあったと思います。(小学校)
- ▶ (児童たちが) 穏やかになったように感じます。(小学校)
- ▶ 和敬清寂の「清」や「寂」ができていないなと気づいたり、友だちに「寂やで!」と声かけをして意識していた。(小学校)
- ▶ 礼をすることに意味を見い出したり、道具を大切にする心など、何事にも普段考えないような意味と意義があることを知り、影響を受けていた。(小学校)
- ▶ 「家でお茶を入れてあげて」と講師の方に言われたとおり、祖母にお茶を入れる児童がいた。(小学校)
- ▶ 茶道と今習っている歴史の学習が結びついていることを体感したようです。(小学校)
- ▶ 言葉が上手ではないが、クラスの雰囲気がよくなって、友だちと一緒に活動できた喜びを感じているようだった。(特別支援学校)
- ▶ したことのない経験から、いろんなことにチャレンジしようとするのを大切にしようとして話をしていた。(小学校)
- ▶ お菓子や抹茶の味、教えていただいた「一期一会」や「和敬清寂」について、教室で話題に上りました。礼の所作を実践する子もいました。(小学校)



次世代向け派遣事業

学校・いけばな・ 出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒に対し、学び舎である学校等で、日本の生活文化である「いけばな（華道）」体験を実施するプロジェクトです。

いけばなの歴史・文化を学びながら、瑞々しい花々を生ける機会を提供し、日本の道徳観や美的感覚、生活を彩り他者をもてなすための創意工夫を学ぶことで、子どもたちの豊かな心や創造性を育むとともに、先人から受け継がれてきた文化の心を次世代に継承することを目的に実施しました。

対象 | 京都府内（京都市立を除く）の小中学校・府立特別支援学校
※教育支援センター、適応指導教室等も対象

期間 | 2024年9月24日（火）～2025年1月31日（金）に随時実施

実施校数 | 小学校3校／中学校5校／特別支援学校6校

実施件数 | 計20件

参加者数 | 計852名

協力 | 京都府教育委員会／京都いけばな協会／京都生花株式会社

いけばな体験 |

楽しく花を生けてみよう

生きている花を用いて、生活を彩ることができる「いけばな」体験を実施。瑞々しい花々や草木に触れることにより、生命の尊さや力強さを感じるとともに、同じ花を使用しても一人一人違った味わいのある作品ができあがり、子どもたちそれぞれの個性を感じられます。また、体験後には、自宅でも生けてもらい、生活の中でいけばなを体感できます。



事前準備

① 実施教室の選定

いけばな体験は花材を広げるスペースが必要なため、広い作業台や机のある美術室等で実施します。また、花器に水を張るため、室内に水道がある教室、または近くに水場のある教室を推奨しています。



② 花材と道具類の保管

花材・道具類の手配は京都府が行い、実施前後の保管を学校が担います。

[花材の保管について]

実施前後に花を保管するため、水を張ったバケツを用意しておきます。



[使用する主な道具類]

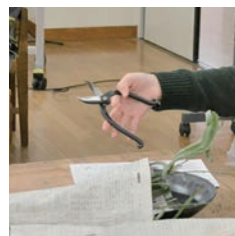
花器 | 直径25cm

※学校の希望に応じて、学校が用意した器を使用することも可能。

花ばさみ | 16.5cm

剣山 | 直径10cm

オアシス | 給水性に優れたスポンジで、自宅でお花を生ける際の花留めとして利用



▼ プログラムの基本的な流れ

① 導入(学習のねらい、講師紹介)

学校教員から学習のねらい、体験の流れの説明、講師の紹介を行います。

また、体験で使用した花は持ち帰り、再び自宅でも生けることを伝えます。



② 講義

日本の伝統文化として育まれてきたいけばなの歴史や背景、自然とのかかわり方、華道で大切にされている「こころ」を学びます。

- ▶ 伝統文化としての華道とその歴史
- ▶ 草花の生命(草花を大切にする「こころ」)
- ▶ 使用する花の特徴や扱い方
- ▶ 節句、生活の中での草花 等



③ 実演・解説

体験に使用する草花、道具類の名前と使用法、作業中の注意点を説明します。

講師の解説を交えた実演では、草花の切り方や生け方を学びます。





④ 体験活動

講師の指導のもとで、花を生けていきます。型は決まっていますが、一つ一つ違う草花、生ける場所や角度などで、子どもたちそれぞれの個性が際立つ作品ができあがります。



⑤ 作品撮影・鑑賞

作品ができた人から、学校教員が作品の撮影を行います。一度剣山から抜いてしまうと二度と同じものを生けることはできないので、記録として写真に残します。撮影した作品写真は体験後に自宅で生ける際にも活用できます。



また、全員の撮影には時間を要するため、撮影の待ち時間にはほかの人の作品を鑑賞し、異なる感性を学びます。



⑥ 自宅での生け方の説明

自宅でもいけばなを続けられるよう、作品で使った花を持ち帰ります。また、講師から花留めとして使用するオアシスの使い方、命ある花を最後まで大切に作る「こころ」を伝えます。



⑦ 片付け・まとめ

全員で教室清掃、花を持ち帰る準備をします。最後に、講師からのまとめや、子どもたちからの感想・質疑応答、講師へのお礼で体験を終えます。

※花器に張った水には、葉や枝等が浮いており、水道管がつまる可能性があるため、ザルを使って水を捨てます。

Pickup | 事例紹介

宇治市立宇治中学校

(1・2年生・特別支援学級・技術部)

講師 | 西阪保則(専慶流)

科目(コマ数) | 総合的な学習の時間(2コマ)

教室 | 多目的教室・技術室

[使用花材(1年生)] 石化エニシダ/ドラセナ(赤)
/スプレーカーネーション(ピンク)/アンズリューム



京都府立丹波支援学校(高等部1~3年生)

講師名 | 杉崎翠山(喜堂未生流)

科目(コマ数) | 総合的な探究の時間(2コマ)

教室 | 寄宿舍食堂

[使用花材] サングミズキ/ガーベラ(ピンク)
/カーネーション(オレンジ)/スイトピー(黄)
/ユウカリ



舞鶴市立加佐中学校(1~3年生)

講師名 | 中村凜翠(小松流)

科目(コマ数) | 総合的な学習の時間(2コマ)

教室 | 美術室

[使用花材] サングミズキ/ガーベラ(オレンジ)
/スプレー菊(白)/丸葉ルスカス



京都府立与謝の海支援学校(高等部1~3年生)

講師名 | 桑原健一郎(桑原専慶流)

科目 | 自立活動(サークル活動)

教室 | 工芸室

[使用花材] ユキヤナギ/スプレー菊(白)
/糸菊(黄)/糸菊(紫)

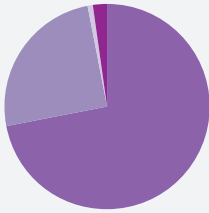


アンケート結果 (児童生徒)

回答数 | 591名 (2025年2月13日時点)

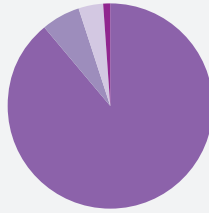
いけばなを体験してみて、
どうでしたか？

- 72% | とてもよかった
- 25% | よかった
- 1% | あまりよくなかった
- 2% | わからない



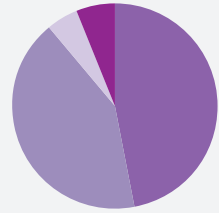
いけばなを体験するのは、
初めてですか？

- 89% | 初めて
- 6% | 家でしたことがある
- 4% | 学校でしたことがある
- 1% | 習っている



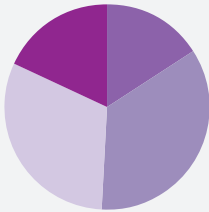
また、いけばなを
体験したいと思いますか？

- 47% | とても思う
- 42% | すこし思う
- 5% | 思わない
- 6% | わからない



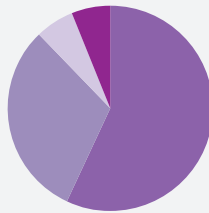
いけばなを習って
みたいと思いますか？

- 16% | とても思う
- 35% | すこし思う
- 31% | 思わない
- 18% | わからない



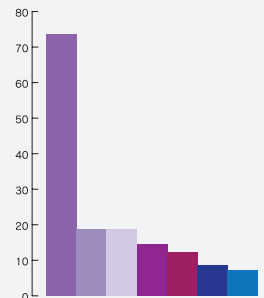
今日の体験を、
家族や友だちに話したい
と思いますか？

- 57% | とても思う
- 31% | すこし思う
- 6% | 思わない
- 6% | わからない



いけばなを体験してみて、
どのような気持ちに
なりましたか？ (複数選択)

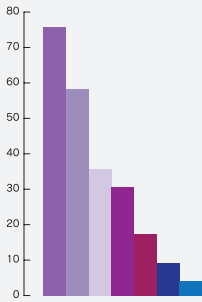
- 73% | 楽しかった
- 19% | 元気になった
- 19% | 緊張した
- 15% | ほっとした
- 13% | 緊張や不安が少なくなった
- 8% | とくに感じなかった
- 7% | そのほか



アンケート結果 (教員)

回答数 | 23名 (2025年2月13日時点)

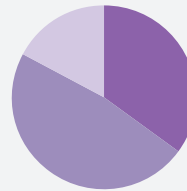
応募した理由 (複数選択)



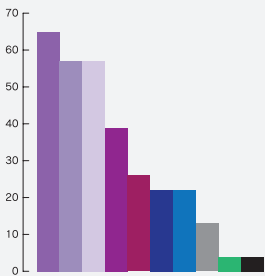
- 74% | 授業に新しい学びの要素を取り入れたかった
- 57% | 体験内容に興味があったから
- 35% | 子どもたちの状況に合っているから
- 30% | 教員も学んでみたかったから
- 17% | 指導計画と合っていたから
- 9% | 授業をアップデートしたかったから
- 4% | 子どもたちが地域について知るきっかけになると思ったから

子どもたちの満足度について

- 35% | 非常に高かった
- 48% | 高かった
- 17% | 普通



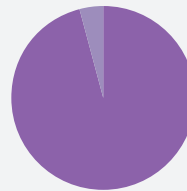
実施してみて、育むことができたと思う子どもたちの能力 (複数選択)



- 65% | 発想する力
- 57% | 集中する力
- 57% | 生命やモノを尊ぶ力
- 39% | 感動する力
- 26% | 共感する力
- 22% | 協力する力
- 22% | 対話する力
- 13% | 伝える力
- 4% | 他者を思いやる力
- 4% | その他

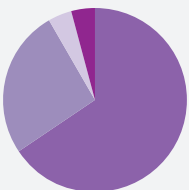
子どもたちの普段とは違う一面を見ることができましたか?

- 96% | できた
- 4% | できなかった



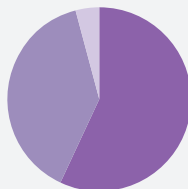
専門家の指導に触れることによって、指導方法の気づきや改善に繋がりましたか?

- 65% | とても思う
- 26% | まあ思う
- 4% | どちらともいえない
- 4% | あまり思わない



今回の体験を通じ、子どもたちの興味・関心を引き出すことができましたか?

- 57% | とても思う
- 39% | まあ思う
- 4% | あまり思わない



今後の事業について

- 100% | 活用したいと思う



子どもたちの声

- ▶ 西洋では左右対称を好むのに反し、日本では左右非対称が好まれるという話を聞いた際、「左右対称の方が整って見えるはず」と思っていたのですが、今回のいけばな体験で、左右非対称の美しさや整った様子、工夫がとても感じられて、自分でも驚きました。(中学2年生)
- ▶ いけばなをすると、嫌なことなどを忘れられたし、めっちゃ集中して楽しくなりました。(中学2年生)
- ▶ 花に触れて、綺麗に生けることの楽しさがとても分かりました。いけばなを見ると、心が安らいたり、自然と気持ちが明るくなるように感じました。家に帰って早速生けました。私は日本の伝統的な文化が好きなのでまた機会があったら体験したいです。(中学2年生)
- ▶ 前に倒すとおかしいと感じていたけど、少し向きを変えて前に倒すと全然雰囲気が変わると知りました。いけばなは、人それぞれ形が違う作品ができ、その人のまた一つの才能が現れているのかなと思いました。(中学2年生)
- ▶ 同じ花を生けても一人一人少しずつ印象が違うのが面白かった。花を見ているとなんとなく心が落ち着く気がして、いけばなを体験できてよかった。素敵な体験をさせてくれてありがとうございました。(中学3年生)
- ▶ 最初は花のことが好きではなかったけど、心にささってびっくりした。教えてもらって花っていいなと思いました。とても嬉しくて、今度はお母

さんと一緒にいけばなにチャレンジしてみようと思いました。本当にありがとうございました。(特別支援学校・高等部生)

教員の声

- ▶ 私自身初めての経験でとても素晴らしい時間を過ごせました。生徒にとっても日本文化と和の「こころ」の探究を進めていくにあたって貴重な時間だったと思います。本当にありがとうございました。(中学校)
- ▶ 体験後に季節によって花の種類が変わることの話や、剣山をお家で購入しようかと、悩んでいる話などをしていた。(中学校)
- ▶ いけばなに興味を持ち、またやりたいと言う生徒が大勢いた。(特別支援学校)
- ▶ 積極的に取り組むようになったと感じている。(特別支援学校)
- ▶ 学校祭で展示し、美術の授業で鑑賞をしました。花の世話ができたことや人に見てもらえたことの満足感があつたように思います。(特別支援学校)
- ▶ 子どもたちがすることに対して肯定的にほめていただき、自由に生けることができました。ありがとうございました。(小学校)
- ▶ 子どもたちにとっても、教員にとっても大変学びの多い事業でよかったです。「本物」に触れることによる児童の学びの深まりを改めて感じることができました。(小学校)

京都府教育委員会からのコメント

今回のいけばな体験では、子どもたちが、花の持つ個性を最大限に活かし、自らの思いや感性を主体的に表現する姿が見られました。感想からは、花の美しさ・力強さや命の重みを感じることで、自然を愛する心や美的感覚が養われた様子が伺えます。今回の取組が、子どもたちが伝統文化への関心を高め、豊かな感性と創造力・表現力を育む一助になれば幸いです。